

## トルコの金融市場動向 Weekly Report

【2018年2月10日～2018年2月16日までの推移】

### 【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は1週間を通して見ると対米ドルで上昇したものの、対円ではほぼ横ばいでの推移となりました。またトルコの2年国債金利は低下しました。

12月の経常収支は77億米ドルの赤字と市場予想をやや上回る赤字となりました。2017年通年で見た経常収支は、赤字額およびGDP(国内総生産)と比較した割合の両方について2016年より悪化する結果となりました。

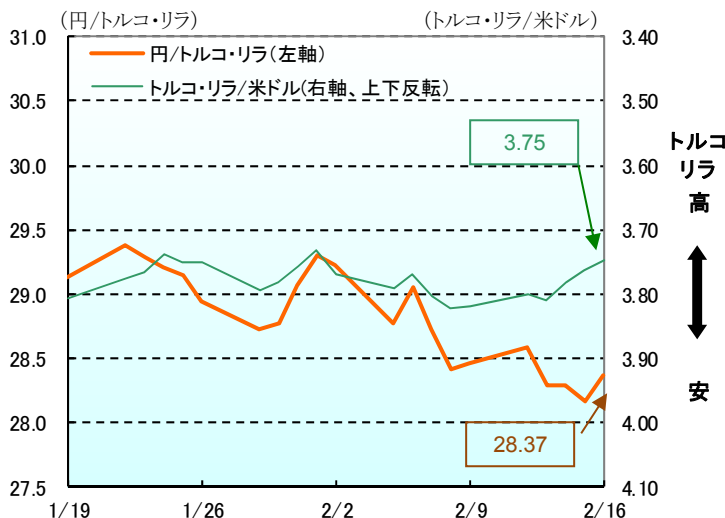
トルコ金融市場では、月初に米国債の金利上昇などをきっかけに米国株式市場が大きく下落したことなどをを受けて高まっていた投資家のリスク回避姿勢が弱まったことを背景に、対米ドルで見たトルコ・リラは堅調な推移となり、トルコの2年国債金利も低下しました。一方、対円でみたトルコ・リラは、円高の進展もありほぼ横ばいでの推移となりました。

### 【2】今週の見通し

今週は重要な経済指標の発表は予定されていません。トルコは1月下旬からシリア北西部のクルド人勢力掃討のために越境作戦を続けています。クルド人勢力はアサド政権と緊張関係にあります。トルコの軍事行動を受けて政権側に支援を求めています。これを受けてアサド政権はトルコ国境付近に政府軍を展開することを明らかにしており、仮に両国軍が衝突する様な場合には地政学リスクに対する懸念が高まりやすいと想定します。

一方で、大規模な戦争状態にならないければ、トルコ経済への影響は限定的となると考えられます。政府の景気刺激策を背景とした堅調な個人消費や欧州向けの輸出の増加により景気の回復が続いていることや高い金利水準から、状況が落ち着きを見せれば再びトルコに注目が集まりやすいと考えます。

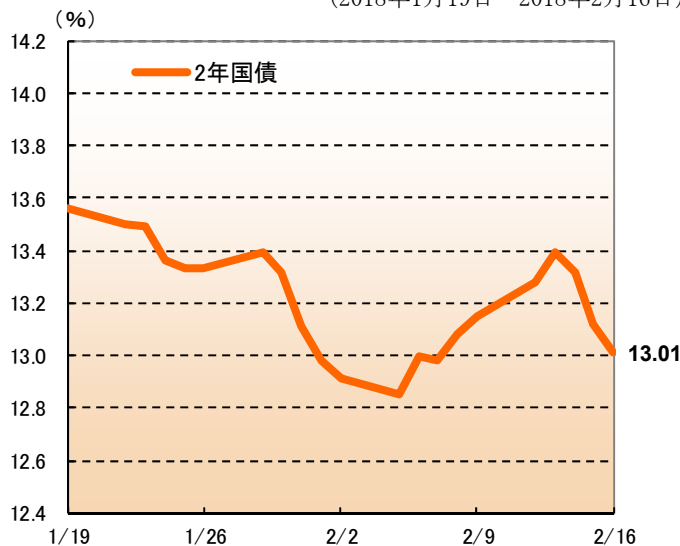
【トルコ・リラ 為替推移】 (2018年1月19日～2018年2月16日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【トルコ 金利推移】

(2018年1月19日～2018年2月16日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

#### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>